

INFO 01

武庫川団地「赤胴車のある広場」で赤胴車マルシェ開催!

10月22日(日)
第一部10時~16時/第二部16時~19時 雨天決行

第一部は、ハンドメイドコーナーや阪神甲子園球場名物グルメ、パンマルシェなど、子どもから大人まで楽しめるマルシェイベントを行います。第二部では、ナイトタイム企画「武庫団じゃナイト!」を初開催! 1日中楽しめる武庫川団地にぜひお越しください。



INFO 02

鳴尾・武庫川女子大前駅 駅前公園 「みんなのちっちゃなアートボックス」第5弾は2人のアメリカ人芸術家による作品

第5弾は西宮市の姉妹都市・アメリカワシントン州スポケーンにある武庫川女子大学分校で講師を務める2人の女性芸術家の作品です。陶器の技法で独自の空間を生み出すリサ・ソラナカと、素朴な画風で「いつか見た景色」を描くメガン・パーキンス。駅前小さな美術館で、海外のアートに触れる時間を過ごしてみませんか?



最新情報は
こちらから!



INFO 03

美容や化粧品に関する市民講座を開講!

開催場所 武庫女ステーションキャンパス

武庫川女子大学の薬学部を中心に、化粧品科学の研究推進や教育を行っている武庫川化粧品イノベーションセンターでは、市民講座を開講しています。「小顔ケア」、「韓国コスメ」など気になる話題を分かりやすくお伝えします。詳細は二次元コード(武庫川化粧品イノベーションセンター公式ホームページ)からご確認ください。



INFO 04

ライフ阪神鳴尾店 毎月実施イベント 「わくわくハッピーDAYS」

ライフ全店舗では、お客様に「おいしい」「ワクワク」「ハッピー」を伝えるために、「秋の味覚」など毎月1回テーマを決めて全売場でイベントを実施しています。詳しくは店舗ホームページや公式Instagram(二次元コード)をチェック!



イベントの詳細・お問い合わせ先等は、二次元コードから各イベントのWEBページをご覧ください。

ランチ 第7回 どこ行く?



生パスタ
iL PRIMO



私たちが
取材しま
した!



(左から)武庫川女子大学 尾平野さん、平野さん、神谷さん、相川さん

鳴尾・武庫川女子大前駅から徒歩約8分の生パスタ専門店「iL PRIMO」。かわいいレンガ調の外観が目印で、店内にはテーブル席の他にカウンター席があり、ひとりでも気軽に入りやすいお店です。「プリモランチ」1,900円は20種以上の選べる生パスタに、サラダ・バケット・ドリンク・ドルチェ盛り合わせがついた高コストパナランチ。悩みながらも今回は自家製

ポロネーゼとジェノベーゼのパスタを注文しました。濃厚なソースが絡まるモチモチの麺は食べ応え抜群で、カリッと香ばしく焼きあがったバケットとの相性も◎。ランチメニューは他にも「ピザドルチェランチ」など充実しているので、友達同士で楽しくシェアしてみたいか? ランチときはすぐに満席になるので、少し早めの来店がオススメです。

iL PRIMO (イルプリモ)
西宮市学文殿町2-7-17 TEL.0798-48-0155
【営業時間】11:00~15:00(LO14:30)、17:00~21:00(LO20:30)/水曜休



なるお通信 Vol.7 (2023年秋号)

「なるお通信 Vol.8」は2024年春発行予定です。お楽しみに!

発行 鳴尾エリアマネジメント連絡会
(株)エンリッジョン/(株)阪神ステーションネット/阪神電気鉄道(株)/(株)みなと銀行/学校法人武庫川学院/(株)ライフイノベーション/(株)ライフコーポレーション(50音順)
制作 (株)阪神ステーションネット 大阪市福島区海老江1-1-31 ☎06-6347-6601
※なるお通信に関するお問い合わせ・情報提供は阪神ステーションネットまで。
※記載の価格には消費税が含まれています。



※なるお通信のバックナンバーをご覧ください。



Mukojoがある街を知る

NARUO TSU-SHIN

なるお通信

地域をつなぐ鳴尾の鎮守神



阪神本線のすぐ北側、上鳴尾町に位置する「鳴尾八幡神社」。鎮守神として、500年以上前から鳴尾地区を見守ってきた歴史ある神社です。そこには宮司不在の時期や台風による損傷を乗り越え、「地域の集いの場」を後世に残そうと活動する人々の姿がありました。新たな歴史をスタートさせた神社や祭事で活性化を図る奉仕会の人々、若者の力で盛り上げる学生ボランティア。「賑わいを取り戻したい」という気持ちでつながるそれぞれの想いを伺いました。

女子総合大学で学生数日本一 Mukojoがある街を知る

なるお通信とは...

鳴尾エリアマネジメント連絡会が発行する、鳴尾に住む人も、住んでいない人も、思わず出かけたくなる鳴尾の魅力を発信するミニコミ誌

Vol. 07

TAKE FREE



特集
地域をつなぐ鳴尾の鎮守神



鳴尾八幡神社 宮司
吉井 良昭さん
2021年12月に鳴尾八幡神社の新しい宮司として就任。西宮神社の宮司と兼務しながら、神事や祈禱といった祭事の取りまとめなどを行う。

鳴尾八幡神社奉仕会 連絡係
源中 依子さん
鳴尾八幡神社と奉仕会をつなぐ連絡係。鳴尾八幡神社で開催される夏まつりや秋まつりなど、祭事の企画から運営までを担う。

宮司不在の時期を乗り越え新たな歴史がスタート

室町時代に創建された鳴尾八幡神社は、古くから地域住民の暮らしを見守り続けています。しかし近年は、宮司不在の状態が続いており、2018年の台風では倒木で本殿が損傷するなど、神社は廃社寸前に。それ以降、地域ボランティアによる懸命な清掃活動が行われるようになり、境内はなんとか維持されてきました。そして2021年12月に、西宮神社の宮司である吉井さんが鳴尾八幡神社の新宮司として就任。これを機に境内の整備が進められ、これまで途絶えていた神事も復活し、賑わいを取り戻していきました。

また吉井さんの就任後、地域ボランティアのメンバーを中心に「奉仕会」を結成。現在は週に3回の清掃活動に加え、祭事の企画・運営などを行っています。再興後初めて開催された昨年の夏まつりについて、奉仕会の源中さんは「大人から子どもまで、3,000人以上の方々にお越しいただきました。活気が戻り嬉しく思ったのと同時に、地域の皆さんも神社の再興を心待ちにしていたんだと実感する瞬間でした」と

振り返ります。次回の祭事は、10月15日(日)に開催される秋まつり。例祭の後、子ども神輿が宮入りし、露店や子ども向けイベントなども実施される予定です。

鳴尾八幡神社と地域のつながりについて、宮司の吉井さんは「積み重ねてきた歴史が長く、地域全体で守ってきた神社だからこそ、人が自然に集まってくる場所になっていると思います。神社と地域の皆さんとの距離がとても近いところが、魅力のひとつですね」と教えてくれました。再び賑わいを取り戻した鳴尾八幡神社を次世代につなぐため、奉仕会や地域住民と一体となって新たな歴史を刻んでいきます。



鳴尾八幡神社
西宮市上鳴尾町14-21
TEL.0798-41-0789
拝観料/無料
拝観時間/常時開放



今後はお神輿の改修が計画されています。「地域の若者にこのお神輿を担いでもらうことが夢ですね」と宮司の吉井さん。



学生ボランティアリーダー
(左から)源中 璃子さん、三上 春来さん

学生ボランティアの力で活気あふれる神社に

源中さんの娘の璃子さんと、その友人たちで行っていたボランティア活動をより充実させるため、2023年6月に学生ボランティアを結成しました。メンバーは奉仕会のInstagramで募集し、武庫川女子大学の学生や近隣の大学生・高校生も加わり、現在は23人で活動しています。

主な活動内容は、夏まつり、秋まつり、鎮守の森市といった祭事の準備や当日のお手伝い、神社の清掃活動など。8月の盆踊り子安社祭では、学生ボランティアが中心となって縁日のブースを出店しました。異なる大学からメンバーが集まっていることもあり、メンバー全員が揃うことは難しく「お互いをフォローし合える

環境を整えるためにも、もっと人数を増やして大きな取り組みに挑戦していきたい」と璃子さんは話します。来年の春頃に、学生ボランティア募集のチラシを近隣の大学で配布できるよう準備を進めているそうです。

学生ボランティアへの参加理由は「地元である鳴尾のことをもっと知りたい」「神社が好きだから」「他大学の学生と交流したい」などさまざまです。参加してみたいという方は、奉仕会Instagramに掲載している応募方法をチェックしてみてください。今後も若者のアイデアとパワーで鳴尾八幡神社をはじめ、地域全体を活気づける姿に期待が膨らみます。

鳴尾八幡神社の祭事

10月15日(日) 秋まつり
本殿で例祭を行った後、境内で露店出店や子ども向けイベントを実施。

11月12日(日)・12月16日(土) 鎮守の森市
地域の飲食店による出店やワークショップなどが開催されるフリーマーケット。

1月1日(月・祝)～3日(水) 初詣
新年の挨拶や巫女さんによるお守りの授与が行われる。境内では振る舞い酒を提供予定。

詳細は鳴尾八幡神社奉仕会 Instagramから

鳴尾八幡神社 奉仕会

武庫女の先生に聞く
interview

鳴尾地区の歴史や風習に詳しい三宅先生に、豊かな自然環境を残す鳴尾八幡神社やかつての賑わいについてお話しいただきました。



武庫川女子大学
三宅 正弘先生
生活環境学部教授
都市プランナー
2006年赴任と同時に「鳴尾毒保存会」設立、鳴尾小学校での苺づくりなど鳴尾毒復活や、鳴尾の伝統行事の「逆さ門松」復活も手掛け。

かつての姿を残す鎮守の森

駅のホームから八幡さんの森の美しさに注目

神戸方面のホームから西を眺めると、私たちが緑の雲の上に浮かんでいるように、向こうには甲山や六甲山を望めます。足もとに広がる緑こそ、鳴尾八幡さんの松林です。神社とは、私たちの暮らしに、ずっと過去からの森の姿を残してきました。いわゆる鎮守の森です。今の都市にとって貴重な緑の空間です。

私が月の石を初めて見たのは、実は1970年の大阪万博の会場ではなく、この鳴尾の八幡さんでした。私が武庫女に赴任したころ、この神社で有名な学者の講演会がありました。その学者は、子どものころ八幡さんで剣道を習っていたような話をされていたような記憶があります。鎮守の森とは、

地域の人が集い、情報発信の場所でもありました。私の授業でも神主さんのお話を聞きにいったこともあります。17年前、学生たちが作った苺を最初に収穫し、まず八幡さんにお供えた思い出があります。収穫祭みたいですね。近年、再び八幡さんが賑わってきました。また新たな創造や共創が生まれていくことを楽しみにしています。

私たちの校歌の一番には「鳴尾のさーとの松かげにー」、三番には「松に鳴る」、そして卒業生の会の名称は「鳴松会」。もちろん鳴尾の松が由来です。この鳴尾の松をもっと感じられる場所の一つがこの八幡さんともいえます。まずは駅から松を眺めてみてはいかがでしょうか。